

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和4年7月28日に文部科学省から提供された全国学力・学習状況調査結果について、上野原市の分析結果がまとまりましたのでお知らせします。

本調査は、本年4月19日に全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることなどを目的として、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施されました。

内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）と生活習慣や学習環境等に関する調査が行われ、市内4校の小学校第6学年の児童138名、3校の中学校第3学年の生徒153名が参加しました。

この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、教育委員会としましては、今後、この分析結果を生かしながら、児童生徒の学力や生活習慣の向上を図り、教育委員会教育方針であります「確かな学力と豊かな心の育成を目指した教育の充実」の実現に向けて、なお一層の教育活動を推進していきたいと考えています。

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭、地域の協力が欠かせませんので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、各学校における教科に関する考察と今後の対策等については、個人面談や学校だよりなどにおいて保護者の皆様にお知らせする予定です。

上野原市教育委員会

○教科に関する調査の状況について

	国語	算数・数学
小学校6年生	国と大きな差はみられない	国と大きな差はみられない
中学校3年生	国と大きな差はみられない	国と大きな差はみられない
	理科	
小学校6年生	国と大きな差はみられない	
中学校3年生	国と大きな差はみられない	

*全国学力・学習状況調査では、主として「知識」に関するA問題と主として「活用」に関するB問題に分けて調査を実施してきましたが、令和元年以降は新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的な問題として調査を実施することになりました。



令和4年度 上野原市全国学力・学習状況調査 教科に関する考察と今後の対策

【小学校国語】

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること。 ・表現の効果を考えること。

課題となる点	今後の対策
1) 文章全体の構想や書き表し方などに着目して、文章を整えること。	1) 国語科はもとより、他教科の中でも自分の考えを相手に伝わるように書く機会を増やす。書いた文章は推敲することが習慣となるように指導する。推敲する際には、推敲の観点が明確になるようにする。相手や目的を明確にして児童自らが推敲する必要性を実感して書くことができる言語活動を設定する。
2) 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけること。	2) 互いに書いた文章を読み合い、感想や意見を述べ合うような言語活動を設定する。目的や意図に応じた構成や展開になるように言語活動の具体的な視点を示す。また、児童が自分の文章のよいところを見つけやすいように、友達への感想は具体的に伝えるように指導する。

【小学校算数】

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができること。 ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができること。

課題となる点	今後の対策
1) 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができること。	1) 問題文を正確に読み、基準量と比較量を正しく把握し、図や数直線を使って考えることができるように指導する。
2) 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できること。	2) 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できる活動を行う。考察する際には、筋道を立てて考察することと、データの特徴や傾向を読み取ることとができるように指導する。

【小学校理科】

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもつことができること。 ・日光は直進することを理解していること。

課題となる点	今後の対策
<p>1) メスシリンダーなどの実験器具を理解していること。</p> <p>2) 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができること。</p>	<p>1) 一人一台端末も利用しながら、実験の方法や実験器具の名称および適切な扱い方について指導を行う。実験・観察など直接体験できる機会を増やす。</p> <p>2) 自然の事物や現象に関わる問題について予想し、計画に基づいて実験・観察を行い、考察をし結論を導き出す問題解決型の学習を行う。考察の際には、実験・観察の結果の中で結論を導き出すために必要な数量や変化の大きさの特徴を見つけ、自分の考えをもつことができるように指導する。自分の考えを説明したり、話し合ったりする言語活動を取り入れた学習を行う。</p>

【中学校国語】

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴、文字のバランスについて正しく理解すること。 ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使用すること。 ・論理の展開を捉えること。

課題となる点	今後の対策
1) 引用の仕方や出典の示し方について理解し、書く活動の中で使うこと。	1) 引用の仕方（引用箇所を「」でくくる、出典の明示、適切な量の引用等）を確認し、資料から作成した文章や図表などの記録を根拠に自分の考えを伝える活動を日常生活の場面と結びつけて指導する。
2) 論理の展開に注意して、正しく聞き取ったり読み取ったりすること。	2) 自分の考えが相手に伝わるように、適切な根拠を用いて、論理の展開を工夫して話すよう指導する。相手の話を聞かせる時も、論理の展開や考えの中心となる部分に注意しながら、正しく聞き取らせるように指導する。
3) 文学的な文章において、場面と場面、場面と描写を結び付けて内容を解釈すること。	3) 文学的な文章において、内容や展開を捉えることを大切に、場面の様子や行動や心情の変化を丁寧に扱い、細部の描写にも着目して作品が解釈できるように指導する。
4) 基本的な漢字について、正しく読んだり書いたりすること。	4) 意味の分からない言葉は調べる習慣を身につけさせたり、日常的に正しく漢字を使う活動を取り入れて指導する。

【中学校数学】

できている点
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができること。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解していること。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること。 ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること。

課題となる点	今後の対策
1) 一次関数の変化の割合の意味を理解していること。	1) 様々な問題を数学を活用して解決するために、伴って変わる2つの量の変化の割合を計算して調べ、さらにそれを事象の説明に用いるように指導する。

<p>2) 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができること。</p> <p>3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができること。</p> <p>4) 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができること。</p> <p>5) 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができること。</p>	<p>2) ある事柄が成り立つ場合や成り立たない場合を比較する活動を通して成り立つための前提を考え、見出した事柄を筋道を立てて説明できるように指導する。</p> <p>3) 日常生活や社会の事象を課題として取り上げ、問題解決の方法に焦点をあて、説明で用いるもの（表・式・グラフ等）とその用い方の両方が明確になるように指導する。</p> <p>4) コンピュータ等を活用した事象の観察・操作・実験を通して与えられた条件を整理して着目すべき性質や関係を見だし、統合的で発展的に考察し、その結果を相互に表現し合うように指導する。</p> <p>5) 「箱ひげ図」を用いたデータの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断し、その理由を説明できるように指導する。</p>
---	---

【中学校理科】

<p>できている点</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 状態変化に関する知識を身近な事象で活用できる程度に概念等を理解すること。 ・ 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画すること。 ・ 動物の外部形態を生活場所と移動の仕方などと関連付けて、分析して解釈すること。 ・ 複数の観測データを天気図と関連付け、天気の変化を分析して解釈すること。

課題となる点	今後の対策
<p>1) 実験結果を適切に処理し、グラフを作成すること。</p>	<p>1) 実験データをグラフにする場面で、実験の課題に立ち返りながら考察を行うためにはどのようなグラフを作成すればよいかを検討するように指導する。</p>
<p>2) 結果に影響を与える観察、実験の操作や条件の制御を検討すること。</p>	<p>2) 身近な現象の観察・実験の充実を図るとともに、結果の妥当性を高めるために、改善点を明確にして実験計画を振り返るように指導する。</p>

生活習慣や学習環境に関する調査の状況

表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を肯定的な回答として割合を示しました。また、時間を問う質問には基準の時間を示しています。

* 次の調査結果は、重要で関心が高いと思われるものと課題となるものを抜粋しています。

1 生活習慣等について

〔単位：％〕

朝食を毎日食べていますか			
	市	全国	差
小	96.4	94.4	2.0
中	85.0	91.9	-6.9

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか			
	市	全国	差
小	80.5	81.5	-1.0
中	77.7	79.9	-2.2

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか			
	市	全国	差
小	87.7	90.4	-2.7
中	92.8	92.2	0.6

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか			
	市	全国	差
小	75.4	71.5	3.9
中	64.0	69.5	-5.5

自分には、よいところがあると思いますか			
	市	全国	差
小	77.6	79.3	-1.7
中	77.8	78.5	-0.7

将来の夢や目標を持っていますか			
	市	全国	差
小	83.4	79.8	3.6
中	66.0	67.3	-1.3

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか			
	市	全国	差
小	72.4	72.5	-0.1
中	75.1	67.1	8.0

今住んでいる地域の行事に参加していますか			
	市	全国	差
小	65.3	52.7	12.6
中	44.4	40.0	4.4

地域や社会をよくするために何をなすべきかを考えたことがありますか			
	市	全国	差
小	61.6	51.3	10.3
中	38.6	40.7	-2.1

・朝食摂取・就寝・起床について、中学生の朝食摂取を除いて、全国と差は見られません。同じくらいの時刻に寝ていますかと同じくらいの時刻に起きていますかの設問は、前年との比較で小学生の割合は低下していますが中学生の割合は改善の傾向がみられます。

・携帯電話・スマートフォン等の使い方について家の人と約束したことを守っていますかは、全国比で小学生は+3.9ポイント・中学生は-5.5ポイントになっています。特に中学生は「約束がない」が24.8%で、全国平均と比べて6.6ポイント高くなっています。

・自分にはよいところがあるは、昨年比で中学生+7.2ポイント・小学生-5.3ポイントで、小学生への自己肯定感を高める取り組みを進めていきます。

・将来の夢や目標を持っていますかは、昨年との比較・全国との比較でも大きな変化はみられません。

・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますかは、中学生の前年比（+6.1ポイント）全国比（+8.3ポイント）と大きく改善しています。

・地域の行事に参加していますか・地域や社会をよくするために考えたことがありますかは、小学生が全国平均を大きく上回っています。（それぞれ+12.6ポイント +10.3ポイント）

2 学習環境等について

〔単位：％〕

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）			
	市	全国	差
小	56.5	59.4	-2.9
中	63.4	69.5	-6.1

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか			
	市	全国	差
小	76.1	71.1	5.0
中	56.2	58.5	-2.3

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上）			
	市	全国	差
小	39.1	36.4	2.7
中	26.8	27.3	-0.5

学校に行くのは楽しいと思いますか			
	市	全国	差
小	82.6	85.4	-2.8
中	72.6	82.9	-10.3

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか			
	市	全国	差
小	95.7	96.8	-1.1
中	97.3	96.4	0.9

人が困っているときは、進んで助けていますか			
	市	全国	差
小	92.0	88.9	3.1
中	90.2	88.4	1.8

国語の勉強は大切だと思いますか			
	市	全国	差
小	92.7	93.3	-0.6
中	94.2	93.2	1.0

算数や数学の勉強は大切だと思いますか			
	市	全国	差
小	94.2	94.2	0.0
中	87.6	86.6	1.0

理科の勉強は大切だと思いますか（理科は4年に1度の調査）			
	市	全国	差
小	86.2	86.5	-0.3
中	77.8	76.8	1.0

小5まで（中1・2の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した。			
	市	全国	差
小	78.3	58.2	20.1
中	83.0	50.9	32.1

授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した（インターネット検索など）			
	市	全国	差
小	58.7	43.9	14.8
中	75.8	37.2	38.6

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか			
	市	全国	差
小	92.1	94.4	-2.3
中	94.8	92.6	2.2

- ・家庭で1時間以上勉強する割合は、前年比で中学生は同程度・小学生は減少していて全国平均を下回っています。2時間以上に勉強する割合では、全国比で小学生+0.2ポイント・中学生+4.0ポイント上回っています。
- ・家で自分で計画を立てて勉強している割合で、前年と比べると、全国（児童・生徒）と市（児童）は大きな変化はありませんが市（生徒）は-18.2ポイントと減少しています。
- ・学校に行くのは楽しいという設問で、小学生は前年度と同等、中学生は+6.7ポイントになっています。中学生の全国比は-10.3ポイント（前年度は-15.2ポイント）です、新型コロナによる学校行事や部活などへの制限が影響していると考えられます。
- ・いじめの設問の生徒および人が困っているときの設問の小学生と中学生はともに前年度より良好な結果になっていて、全国とも同等の結果になっています。
- ・今回学力を調査した教科（国語、算数・数学、理科）を大切だと思う小学生と中学生の割合はほぼ全国と同等になっています。
- ・GIGAスクール構想で整備された端末利用では、週3回以上端末を授業で使用した割合や意見交換する場面での利用など全国平均を大きく上回っています。また、ICT機器が勉強に役立つと答えた小学生・中学生の割合も高くなっています。